

【4段階評価 A (4) そう思う B (3) ややそう思う C (2) あまりそう思わない D (1) そう思わない】

○ 知育

重点目標	目標達成のための努力実践事項	学校の自己評価コメント (○は職員の考察 ◎は生徒・保護者アンケートから)	自己評定	関係者評定	学校関係者コメント
・きめ細かな学習の推進による学力向上 評価 一人一人の学力を保障する。 (成績下降者0人)	① 個に応じた指導の充実を通して確かな学力の向上を図る。 <small>*個別の学力向上プランに基づいた指導と検証、見直し</small>	○ 生徒の学力向上には効果が見られたものの、個別の学力向上プランを活用した授業の質には、まだ改善の余地がある。 ◎ 「授業のわかりやすさ」についてのA・B評価は、生徒91%、保護者93%である。評価は高いが、各種テストの結果から学力向上につながっているとは言いがたい。個々のテスト結果の分析を行い、学習指導に生かしていく必要がある。	3.3	3.8	○ 少人数の良さを生かしたやり方を更に追及してほしい。 ○ 先生方の熱心な声掛けで生徒達もやる気が出ていると思う。 ○ 夏尾の子ども達は、人前でも堂々と積極的に発言している姿がいつ見ても頼もしい。日頃の取組の結果だと思ふ。 ○ 検定を受ける際には、過去問やアドバイスなどが、もう少しあればいいと感じる。
	② 表現力の向上を目指す。 <small>*「表現の時間」の工夫</small>	○ 校内研究において、「表現の時間」を設定し、生徒の表現力向上に向けて、実態把握から作文・スピーチといった段階的な活動に取り組んだ。今後はディベートへと発展させる計画である。 ◎ 「表現力がついてきているか」についての生徒のA・B評価は、96%である。生徒の様子やスピーチの内容からも成果が上がってきていることが伺える。			
	③ 研究授業を通して授業力の向上を図る。 <small>*一人年間1回以上 *子ども達が主役の授業の推進、「授業参観視点表」の活用、ICTを活用した授業改善</small>	○ 全員が研究授業を実施し、参観視点表に基づいた生徒の理解と定着を図る指導の工夫改善に努めた結果、全教員が全ての教科における授業力の向上を実感できた。 ○ 授業研究会でFigjamを活用し、活発な意見交換と情報共有を実現できた。これにより、単なる感想ではなく、今後の個別の工夫改善点も明確に共有できた。			
	④ 検定資格取得を推進する。 <small>*漢字検定・数学検定・英語検定</small>	○ 漢字検定年3回実施 総受検者数29名、数学検定年1回実施 総受検者数7名 ● 上位級の合格率があまり良くない。受検者に検定合格に向けて、学習を促す仕掛けが必要である。			
	⑤ 学力調査結果から授業を検証する。	● 学力調査の分析結果を授業に活かすまでには至っていない。			
	⑥ キャリア教育の視点に立った進路指導を充実する。	○ 今年度は、市の事業や社会福祉事業の講座などを活用し、外部講師を招き、職業講話や職業体験を実施するなど、将来について考える機会を多く設定した。 ◎ 自分の進路について考えていることに対するA・B評価は、生徒75%、保護者76%である。職業調べや職場体験学習等を通して、自分の将来について考える機会を充実させる必要がある。			

《課題と改善点》

- 生徒一人一人の実態に応じた『個別の学力向上プラン』の改善を図り、きめ細かな指導の充実に努めるとともに、生徒が主役の「わさびの授業」を推進していく。
- 生徒の表現力向上に向けて取り組んでいる「表現の時間」の更なる充実を図り、作文・スピーチといった活動に加え、バズセッションやディベート等の手法も取り入れながら異学年交流等を進めていく。

○ 徳育

重点目標	目標達成のための努力 実践事項	学校の自己評価 (○●は職員の考察 ◎は生徒・保護者アンケートから)	自己 記 述	関係 者 記 述	学校関係者コメント
・命を大切にす る、思いやりの ある生徒の育成 評価 教育に関するア ンケートで一人 一人の状態を把 握する。 (AB 評価 80%以上)	① 道徳科の授業の充 実を図る。 (授業研究会の実施) *「主体的・対話的で深い学 び」の実現	○ 6月の参観日に道徳の授業参観を実施し、保護者参加型の授業も実施した。 ○ 道徳の授業は、担任が不在の際も副担任が代わりに授業をするなどし、毎回確実に授業を行うことができている。少人数のため、他校とのリモート授業を企画したり、全校道徳を実施したりするなど、多様な価値観に触れさせる授業の工夫を今後も行っていく。	3.6	3.8	○ 夏尾の環境は、道徳教育 に大変有効であると思う。 ○ 保護者参加型の授業は、 保護者も勉強になる。
	② 命の大切さを考え る集会を充実させ る。 *講話後の感想による変容 の確認	○ 先生方の工夫により、職員輪番による講話を軸に「命の大切さを考える集会」が計画的に実施されており、内容も充実している。生徒の感想からも、その有意義な様子が伺え、集会は大きな意義を持っている。 ◎ 「自分や他の人の命について考えることができているか」の A・B 評価は、生徒 96%、保護者 82%であった。保護者の評価から家庭でも話題になっていることが伺える。			
	③ 対人関係能力を育 成する。 *ソーシャルスキルトレー ニングの実施	○ 対人関係能力の育成のため、「ソーシャルスキルトレーニング (SST) の時間」を設け、計画的に実施した。SST では、生徒の実情に合わせたスキル改善のための活動を楽しく実施でき、コミュニケーション能力の向上に効果があった。効果の期待できる取組なので、時間を確保して、更に充実させていきたい。 ◎ 「自分の考えをもったり、表現したり、伝えたりする力がついてきているか」の生徒の A・B 評価は 96%であった。昨年度より、19%の向上が見られ、取組の成果が伺える。			
	④ 生徒会活動を通し て主体性を伸ばす。 *あいさつ運動、美化活 動、ボランティア活動等	○ 生徒会活動では、生徒主体で立案・計画・実施までを任せることができている。ICT を活用した生徒総会で活発な意見交換が行われ、プレゼン形式の報告で内容が生徒に浸透し、委員長のリーダー性も育っている。今後は、自発的な活動への更なる支援のため、あいさつ運動やボランティア活動の充実を図っていく。 ○ 御池少年自然の家のやまびこ祭に 16 名の生徒がボランティアとして参加した。また、7月14日・9月22日に実施した「あいさつ運動・交通安全啓発活動」にも多くの生徒が参加している。 ◎ 「生徒会活動に意欲的に取り組んでいるか」の A・B 評価は、生徒 71%である。昨年度と比べ、16%向上した。生徒が自ら考え行動する手立てを考え、達成感や充実感を味わえる場面を増やしていく。また、西岳・夏尾地区に限定せず、ボランティア活動の紹介なども積極的に行っていく。			

《課題と改善点》

- 道徳の授業は、学級担任・副担任で協力して実施し、他校とのリモート授業や全校道徳を実施するなど、多様な価値観に触れさせる工夫を行っていく。
- 人間関係を円滑にするために取り組んでいる「SST (ソーシャルスキルトレーニング)」の更なる充実を図り、将来に生きて働くコミュニケーションスキルを身に付けさせ、生徒の自己肯定感や自己有用感を高めていく。

○ 体育

重点目標	目標達成のための努力 実践事項	学校の自己評価コメント (○は職員の考察 ◎は生徒・保護者アンケートから)	自己 記 述	関 連 記 述	学校関係者コメント
・健康でたくましい体づくりと食育の推進 評価 食と防災に関する生徒の意識を向上させる (A・B評価 食75%、防災80%以上)	① 日常的な体力づくりを行う。 ＊授業を中心とした体力づくりの工夫	○ 体育の授業、朝の活動、SUT(ステップアップタイム:持久走)の時間や部活動を通して、柔軟性や持久力を高めることができた。 ◎ 「学校生活や部活動を通して、体力が向上しているか」のA・B評価は生徒83%、保護者76%であった。運動を苦手とする生徒の割合は高いが、中でも特に部活動でのがんばりを生徒、保護者ともに感じている結果だと言える。	3.4	3.7	○ 体力面は、徹底的に鍛えていくべきだと考える。 ○ 1年生が、部活動を始めてから体力がついてきたように感じる。体を動かすことの楽しさを体験させてほしい。 ○ 外部講師を招いての性教育の授業を実施し、保護者も一緒に参加できるとよいと思う。
	② 望ましい食習慣の形成を行う。 ＊食に関する指導の工夫と家庭と連携した弁当の日の実施	○ 栄養教諭を招いて、食に関する学習会を実施した後、弁当の日に向けた事前学習会を行い、弁当の日を2回(6月・10月)実施した。振り返りアンケートやワークシートから学習したことを基に、アレンジを加えながら弁当作りを楽しんでいることが伺えた。 ◎ 「弁当の日に取り組むことができたか」のA・B評価は生徒91%、保護者100%。家庭において、親子で弁当の日に取り組んでいることがわかる。			
	③ 性教育の充実を図る。 ＊年間指導計画の確認と見直し及び授業実践	○ 産婦人科医による性教育の授業は、台風接近のため実施できなかったが、1・2年生には、養護教諭から性についての授業を行った。3年生は外部から講師を招いて、デートDVについての授業を実施した。			
	④ 危機管理の徹底及び防災対応能力を育成する。 ＊家庭を巻き込んだ防災教育	○ 地震・噴火を想定しての保護者引き渡し訓練を1回(5月)、不審者対応の避難訓練を1回(9月)実施した。御池青少年自然の家で煙体験、水消火器体験を行い、火災に対する防災訓練(10月)を行った。また、シェイクアウトに合わせた避難訓練(12月)を行い、防災集会では、非常用持ち出し袋についての学習を行った。 ◎ 「災害時に自分の命の安全を守るための力が身に付いているか」のA・B評価は、生徒96%、保護者76%である。生徒の意識の高さは今年度の取組の成果である。今後、家庭をさらに巻き込んだ防災教育の在り方の工夫をしていく。			
	⑤ 部活動を充実させる。	○ 休養日を適切に設定しながら、平日・週末ともに練習に取り組んでいる。各種大会で、上位の成績を残すことができた。また、個人目標を設定し、チーム内で切磋琢磨することができた。 ◎ 「学校生活や部活動を通して、体力が向上しているか」のA・B評価は生徒83%、保護者76%である。			
	⑥ 立腰指導を充実させる。	○ あいさつ時の立腰は定着しているが、授業中や話を聞く姿勢の崩れが課題である。改善に向け、全職員での共通実践や生活委員会の活用など、組織的な指導体制の強化が必要である。			

《課題と改善点》

- 保護者送迎で登下校している生徒が多いので、保体の授業や朝の活動等を通して、生徒の運動量を増やす工夫を行っていく。
- 防災意識や防災対応能力を高め、生徒が主体的に参加する避難訓練や防災に関する体験活動の充実を図っていく。

○ 保護者・地域と連携したふるさと教育

重点目標	目標達成のための努力 実践事項	学校の自己評価 (○は職員の考察 ◎は生徒・保護者アンケートから)	自己 記 述	関 絡 記 述	学校関係者コメント
<p>・保護者・地域とともにある地域に根ざした学校の創造</p> <p>評価 地域との関わりへの生徒の意識を向上させる (A・B評価50%以上)</p>	<p>① 情報発信のために各種通信やホームページを充実させる。</p> <p>② 地域行事への積極的な参加・交流により相互理解を図る。</p> <p>③ 学校運営協議会を充実させる。</p> <p>④ 保護者と教育的課題を共有する。</p>	<p>○ 学校便りを月1回発行、各学級担任から学級通信を発行し、学校の様子を地域・保護者に伝えている。また、ホームページやシグフィーの活用により、行事や日常の活動を含めた情報発信体制は十分に機能している。</p> <p>◎ 「学校からの文書を保護者に提出する」ことについてのA・B評価は生徒71%、保護者71%である。学校からの文書が保護者に届いておらず提出物が出ないこともあったため、引き続きシグフィーを活用し、生徒への指導も行っていく。</p> <p>○ ふるさと探訪、地域の清掃活動、職場体験学習、福祉教育、地域料理教室、門松づくりなど地域の方々の協力を頂いて実施できた。また、グランドゴルフ大会では、案内チラシを配付し、参加を呼びかけ、当日は、生徒が企画したレクリエーションで交流することができた。今後も、学校公開を行い、地域の方々にも案内し、地域に根ざした学校の創造を進めていく。</p> <p>● 地域との交流活動は図れたが、地域行事への参加が難しかった。</p> <p>○ 御池青少年自然の家をやまびこ祭りにボランティアとして16名が参加した。今後は、総合的な学習の時間などを通して、地域貢献について生徒に考えさせていきたい。</p> <p>◎ 「学校や地域の行事への積極的な参加」についてのA・B評価は生徒96%、保護者94%である。やまびこ祭やふれあい文化祭等への参加の結果だと思われる。</p> <p>○ 学校運営協議会委員の方々には、学校運営協議会だけでなく、学校行事にも参加していただき、ご意見やご感想を頂いている。さらに熟議を重ね、学校と地域が互いに本音を言える関係づくり、共生関係を構築し、夏尾中の良さ、夏尾中らしさがでる学校づくりを目指していく。</p> <p>○ 保護者送迎の際に、積極的に職員から声を掛け情報交換や情報共有を行っている。</p> <p>◎ 「スマホやゲームなど時間を決めて利用しているか」についてのA・B評価は生徒46%、保護者47%で、約半数の家庭がスマホやゲームの利用時間が決められていないようである。本校の課題のひとつとして、保護者への啓発や取組を考えていく必要がある。</p>	3.7	3.8	<p>○ 保護者へのこまめな情報発信は、継続してもらいたい。</p> <p>○ 門松は、道路から見える場所に設置できないか。小学校は門松があるのに中学校にはないのかと聞かれた。</p>
<p>《課題と改善点》</p> <p>○ 地域人材の活用を図るとともに、地域の方々が学校に関心をもって、気楽に足を運んでいただける工夫を行っていく。</p> <p>○ 学校便りやホームページ等の充実を図り、地域や保護者への情報発信を行っていく。</p> <p>○ 家庭でのスマートフォンやゲーム等の利用について、情報モラル教室や学級懇談等で保護者への啓発を行い、家庭と学校の連携を深めていく。</p>					